

Alert 14号

反天皇制運動

[通巻 396 号]

2017 年
8 月 8 日発行

第X期・反天皇制運動連絡会

今月のAlert

●安倍はやメロ！ 天皇制いらない！ のデッサン！—— *2

反天ジャーナル ● なかもりけいこ、つるたまさひで、映女 *3

状況批評 ● 異性愛主義の再生産装置としての天皇制——堀江有里 *4

ネットワーク ● 天皇代替わりにNO！全国津々浦々から騒然たる議論を——行動を
神奈川のこころみ——京極紀子 *7

書評 ● 「教育に浸透する自衛隊——「安保法制」下の子どもたち——有馬保彦 *8

太田昌国のみたび夢は夜ひらく (87)

●「一帯一路」構想と「古代文明フォーラム」——太田昌国 *9

マスコミじかけの天皇制 (14)

●天皇の天皇による天皇のための「生前退位」反対！
〈壊憲天皇明仁〉その12——天野恵一 *10

野次馬日誌 *11 集会の真相 *14 学習会報告 *15

反天日誌 *16 集会情報 *16

先日、福岡で開かれた「政教分離訴訟全国交流会」に参加してきた。今回で30回、すなわち、中曽根の靖国「公式参拝」への訴訟以来、毎年行われてきたもの。私は去年、東京で行われたときが初参加だったが、さすがに長年、このテーマで活動を重ねてきた人たちの集まりなので、充実した議論に、さまざまな刺激を得た。

今回とくに、2019年におこなわれるであろう「即位・大嘗祭」に関して、「政教分離訴訟」という枠組みで何ができるかに議論が集中した。前回の「代替わり」でも「即・大違憲訴訟」が、1700名もの原告を集めて闘われたが、今回ももちろん、何らかの行動を起こすことは前提。ただそこで、「大嘗祭」は明らかに政教分離違反だが、「即位の礼」は必ずしもそうではなく、「国民主権」原則違反としての色合いが強いので、政教分離違反の訴訟という点では分けて考えるべきではないかという意見が出て、いろいろと議論になった。

前回の訴訟では、「即位の礼」の儀式についても神道色の強いものがあり、それが政教分離に抵触する可能性があることが裁判所で判断されている、その意味でも機械的に分けられないという弁護士の発言もあり、実にそのとおりだと思った。憲法的には、「政教分離違反＝『国民』主権原則違反」でなければならない、と。同時に私は、そもそも天皇制自体が神道儀礼と切り離して存在することはできず、またそれは「非宗教」的な外皮をまとっていた場合にも、現実的に国家の宗教性を体现している以上、政教分離違反の存在じゃないの？という思いがし続けていた。天皇制を政教分離違反で問うことはできないものか。だいたい、天皇制の「天」ってなんだよ。

(北)



250 円

●定期購読をお願いします(送料共年間4000円)

●郵便振替 00140-4-131988 落合ボックス

東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 2A 淡路町事務所気付 落合ボックス

TEL/FAX 03-3254-5460 URL <http://hanten-2.blogspot.jp/> mail: hanten@ten-no.net



今月の
Alert

安倍はヤメロ!
デッカイ声を!

天皇制いらない! の

ここにきてやっと安倍政権支持率が急落し、三〇パーセントを切ったという。そしてすべての疑惑を放り投げたままの内閣改造。八月二日には新聞係が発表された。さすがに第二次安倍政権発足時のような、「お友だち」で埋め尽くす人事はできなかったようだが、これですべての疑惑をやむやみに、安倍は生き延びるつもりなのだろうか。

安倍が追い詰められているのは、直接的には次々と出てくる疑惑・スキャンダル問題が大きいとはいえ、これまでの無茶苦茶な国会のありようの結果でもあり、粘り強い「安倍ヤメロ!」の声の結果でもある。だから、内閣改造ごときで生き延びさせるわけにはいかないのだ。国会内外からの追及の手をいまこそ強めていくしかない。さらなる大きな声をあげていこう。

その安倍政権が短期間でつくりだした数々の悪法は、安倍内閣の行方とは無関係にすでに動きはじめている。反天皇制の運動に直接関わる天皇の「退位特例法」も同様で、すでに七月二十八日には、退位・即位・改元に向けたスケジュールについて想定される日程が公表された。二〇一八年二月下旬に退位・即位し一九年一月一日改元、一九年三月末に退位し四月一日即位・改元という二案だ。政府は「国民生活への影響」を最小限に抑えるためとして前者を、宮内庁側は年末年始は「重要な皇室行事（祭祀）」が相次ぐので後者を推しているという。天皇制にも元号にも反対する私たちは、どちらにも与することはできない話である。

ただハッキリ言えることは、少なくとも法律に基づく改元の時期等に関する政治的なスケジュールについて、天皇家の私的な行事である祭祀を理由に、天皇側が政府の方針に口を出すという事態のおかしさである。憲法二〇条の政教分離の原則にも、政治に関与してはならないという憲法四条にも触れるはずだ。なによりも、天皇一人の都合ではなく、一億二七〇〇万の「国民」の都合が先なんじゃないのか? その「国民」もいまでは天皇への「敬愛・理解・共感」が法律で定められてしまっているのだが。さすがにここまでくれば多くの人の目にも、これまでよりは「非国民」が素敵に見えてくるのではないかとさえ思う。

このかんの「天皇退位特例法」制定をめぐって天皇の不満の声が漏れ聞こえてきているが、少なくとも一年前のビデオメッセージで語った天皇の意思は天皇にとって理想的な形で法律に反映されている。憲法第六条・七条で厳しく規定されている行為以外の、いわゆる「象徴行為」「公務」と呼ばれてきたものを法律レベルで認めさせ、「国民」の「敬愛・理解・共感」までも法律で取りつけ、天皇の意思とこの「国民の理解」云々で、次期天皇の生前退位も可能とさせる余地すら作り出させた。不満などあるはずもなからうと思うのだ。不満どころか抗議すべきは私たちの方である。

この天皇の不満話については、小堀桂一郎らが、天皇が強い不満を漏らしていたという『毎日新聞』の記事をめぐり、天皇の発言を記者に漏洩したなどとして氏名不詳の宮内庁幹部職員と毎日

新聞社の社長、記者に対する国家公務員法違反（秘密漏洩）罪の告発状を東京地検特捜部に提出した、という。天皇の発言は「重大な秘密として厳重に秘匿すべき法律上の義務があるの」というのだ。

伝統主義的右派の立場で、何をどのように問題にしているのかわからなくなっているのではないかと考える告発について、こで言及するつもりはない。ただ、今の事態を批判的に評する意見として、このようなウルトラ右翼の見当違いな告発くらいしか表に出さないメディア状況、言論状況は深刻な事態なのだ。天皇の違憲行為、それを付度する国会の意見状況を批判する私たちの、たとえば天皇個人および国会議員に出した「8・15行動準備会」による二種類の抗議文については、まったくなきものとされた。私たちはメディア各社に抗議文およびその提出について事前に案内を出しているにもかかわらず、まったく無視されたことは、繰り返し伝えておきたい。

明仁のビデオメッセージから一年。このかんに私たちが見てきたことは、こういった伝統主義右翼も、リベラルを標榜する層も、国会、メディア、市民社会全体が、それぞれの立場で天皇を付度したてまつる情景だった。この社会の低すぎる民主主義の底上げのためにも、このかんの天皇問題を外しては考えることはできない。一足飛びは無理だが、一歩ずつめげずに進んでいくしかない。

まずは8・11集会、8・15デモへ!

(大子)

ミサイル避難訓練は必要か否か

安倍首相はお得意の情報操作でテロ対策を理由に共謀罪を成立させ、北朝鮮の脅威を煽り改憲に突き進んでいる。北朝鮮の弾道ミサイル実験に対して、国民保護のポータルサイトで落下時に取るべき行動を示しているだけでなく、六月には税金約四億円もかけて全国民放五局で放送し、全国七〇紙に新聞広告をだした。さらに各都道府県に避難訓練を行なうよう呼びかけ、取組んだ自治体は多く、脅威に取込まれたようだ。

テレビCMはビルの中に逃げ込むシーンや畑の土管の中で頭を抱えている姿を流していたが、どれだけの人が身を守れると感じただろうか。一方で北朝鮮の威嚇行為をやめさせるには外交による対話しかないと考えている人たちの中に、ミサイル技術は格段に進歩し日本も射程距離に入っている飛来する可能性もある。

住民が恐怖を感じるなら避難訓練もありとの声がある。しかし北朝鮮は世界一六ヶ国と国交があり、攻撃のターゲットは国交のない米国や日本、休戦状態の韓国などで、真の目的は対等な立場で対話の席につくことだと思う。住民の不安を無視できないという考えもわかるが、最後は対話しかないと言えが出ている以上、避難訓練は情報操作ですり込まれた恐怖心の表れでしかない。

(なかもりけい)

「原爆の図保存基金」について

現在の原爆の図丸木美術館は天窓から自然光が入り、風がある日は窓から風が吹き抜ける空間です。それは自然に近い素敵な空間なのですが、真夏や真冬は厳しい空間です。エアコンで涼める部屋も設置したので、ぜひ、見に来てください。

しかし、自然光や網戸を抜けてくる虫は作品の保存にとってはいい場所とは言えないようです。だから、原爆の図をちゃんと保存できる建物を作るう、それだけでなく、それを次の世代に伝えるためのアーカイブも整備しようということで、「原爆の図保存基金」を立ち上げました。目標の五億円という金額は想像もできないのですが、詳しくは美術館のホームページにあります。ご協力をお願いします。

他方で、核兵器をめぐる状況はと言えば、核を持たないあたりまえの感覚を持った一二の国や地域の賛成で核兵器禁止条約が成立しました。この成立過程で明らかになったように、歴史の中で唯一、実戦で核兵器を使用したこの国の政府は核兵器を用いた「安全保障」戦争政策にしがみつき核兵器の禁止に反対しています。そんなあきれるしかないような状況のこの国で、核兵器がもたらす悲劇を語り継ぐ責任はますます重要になってきているのではないのでしょうか？

(つるたまさひで)

映画『三里塚のイカロス』

本作は、空港反対運動の農民を撮った記録映画『三里塚に生きる』（故大津幸四郎・代島治彦共同監督）の続編。農民と共に闘った若者を代島さんが撮っています。当時の若者にとって、三里塚は「革命の学校」、「人生の学舎」でした（田原牧著『人間の居場所』）。

監督がインタビューしたのは、10人。第二国際空港・三里塚に決定という新聞発表に驚かされた農民活動家、1981年から25年間三里塚現闘責任者を務めた元活動家、支援に入って農民と結婚した3人の元女性活動家、その一人の夫・元反対同盟青年行動隊員、テレビで婦人行動隊の勇姿をみて京都から駆けつけた元高校生、開港阻止のため管制塔を占拠した元活動家、義勇兵のつもりで管制塔を占拠した元国鉄下請労働者、用地買収担当の元空港公団職員。大友良英率いるフリージャズが音楽。

それぞれにドラマがあり、人生があります。映画には地元農民と結婚した女性が登場します。永年農業に携わっているその節くれた指の爪にじむ土、胸を突かれます。

中核派の現地責任者だった岸宏一さんは、映画の完成を待たずに谷川岳で遭難されたそうです。遺言になりました。映画の最後、頭の薄くなった岸さんの後姿、轟音を発する頭上の飛行機。どうにも忘れられない場面です。

(映女)

状況批評

思想・状況批評

異性愛主義の再生産装置としての天皇制

堀江有里

(信仰とセクシュアリティを考えるキリスト者の会／日本基督教団なか伝道所〈横浜寿町〉牧師)

眞子「婚約」報道に思う

秋篠宮家の娘である眞子が同級生と婚約する、というニュースをNHKが「スクープ」として報道したのが、二〇一七年五月一六日。翌日、多くの新聞ではこのニュースが一面を飾り、婚約相手とされる小室圭には報道陣が張り付き、緊急記者会見と相成った。

こういうニュースは嫌な予感がある。また、メディアでの祝福ムードが始まる。「ご婚約」そして「ご成婚」へと至る一時的な祝賀報道合戦だ。ここには、さしあたり、大きく分けて二つ問題があるとわたしは考えている。ひとつには、「婚約→結婚」という単線的な出来事が、よいものであるとする価値観が再生産されつづけること。もうひとつには、それと連関して、「結婚」を前提とする家族主義が再生産されつづけること。まさに異性愛主義という規範を維持し、再生産する出来事にほかならない。異性愛主義とは、人間を「女」と「男」という二つの性別に分け、権力関係をもたせたうえで、男女が一对となることを「当たり前」とする価値観のことである。

いずれにしても、皇室のみならず、「一般人」に及ぼす影響は小さくはないが、厄介なことに「祝福」をめぐる事柄というものは、異論を挟んだり、批判したりすることがなかなか難しい。身近なところでも同じ。誰かと誰かが結婚するという話に「おめでとう」と言わないことには勇気が必要だ。また、誰かと誰かが離婚するという話に、それがどんなに当人たちが納得した円満なものであっても「おめでとう」という言

葉がかけられることは、まずほとんど、ない。眞子が婚約するらしいというニュースに接し、日常でも「おめでとう」が半強制的に言われる「結婚」という出来事に、ましてや、皇室の行事として宗教的儀式に伴い、莫大な国家予算が使用されるとなると、メディアの祝福ムードと比例して、こちらの意気消沈具合が増していく、というのが正直なところである。

■選民としての「正しい結婚」

七月七日に予定されていた「婚約」記者会見は、九州地方の災害のために自粛された。つまり、メディアによる祝福ムードも延期というわけだ。これもとても象徴的な出来事ではないだろうか。祝福ムードの演出は「全国民」が対象とならなければならない。そのための自粛である。甚大な被害が出ている地域がある以上、「祝福」は自制されなければならないらしい。では、いつになったら「解禁」されるのか。これまでのさまざまな出来事と同様、多くの人がびとに忘却されたころだろう。あまりにえげつない話ではある。ならば、むしろ、どうせ祝福ムードが過剰に演出されるのであれば、最初から自粛など必要なのではないかと思うのは、わたしだけだろうか。いや、このまま、祝福ムードが演出されずに終わるのであれば良いのだが。

NHKの報道以来、後を追って、ワイドショーや女性週刊誌を中心として小室圭とはいかなる人物かが喧伝されはじめた。こんな具合である。

国際基督教大学で同級生だった、二〇一〇年には「海の王子」（藤沢市観光協会）に選ばれた、中学高校はインターナショナル・スクール出身で英語が堪能、現在一橋大学大学院で研究に勤しんでいると同時に法律事務所勤務、などなど。さらには、父親を一〇歳のころに亡くし、母の手一つで育てられてきたなか、とても母思いの親孝行な息子でもあるというエピソードも。つまり、頭が良い、容姿端麗、思いやりがある、という、いわゆるイケメン具合が取り上げられてきた。当然、皇室の誰かと結婚するには、その人自身のみならず、親族も含めて「素性」が調査されるのは周知の話ではあるが、「選ばれた」人物像がこのように取り上げられていくことによって——プライバシーが暴かれていくことによって——、好感度のみならず、人びとに「皇室から嫁をもらうにふさわしい」イメージがつくりあげられていく。

また、いわゆる「結納」にあたる「納采（のうさい）の儀」にはじまり、皇室儀式はつづく。これらも含めて、眞子が皇室離脱（臣籍降下）のために国家予算（税金！）から支出される「一時金」が、皇室経済会議でどのくらいになるのか注目しておく必要があるだろう。二〇〇五年に明仁の娘である礼宮（現・黒田清子）が結婚した際には約一億五千万円だったという。結婚のために皇室を離脱するのには、それほどの資金が使われるということだ。

夫としての人物像、儀式、費用——これらを少し考えてみても、選民思想が浮かび上がってくるのではないだろうか。

同時に、そこで提示されるのは「正しい結婚」のプロセスである。結婚を前提としたおつきあい、「婚約」の公表、夫となる人が嫁となる人の親（とりわけ父親）に挨拶に行き、娘を受け取る交換物としての「結納」を行う。結婚式の数日前には、嫁となる人は親にひとりで挨拶を行う（朝見の儀）。婚姻に必要な戸籍をつくるために臣籍降下を行い、そ

して、婚姻届を役所に提出する。これらのプロセスに刻銘されているのは、太平洋戦争後には民法から姿を消したはずの「家制度」である。皇室は民法の対象にはならないから、治外法権なのだろうか。父の家から出て、夫の家に入るという出来事。そして、そこには強固に性別役割分担を伴ったジェンダー秩序が刻銘されているのである。もちろん、異性同士の結合を「家族」の前提として、である。

このような皇室の「結婚」が、祝福ムードとともに、ひとつのモデル・ケースとして喧伝されていくことによって、社会における異性愛主義や家族主義は、よりいっそう、人びとの意識的・無意識的な規範を強化していくことになるのではないだろうか。

■「家族」規範の強化が目論まれる国家体制

ただ、皇室の「婚約」や「結婚」という出来事だけではなく、いま、日本社会のなかで異性愛主義や家族主義は、どのような背景をもっているのかをみておきたい。

現在の日本社会において、「家族」をめぐる状況は変容してきている。一方では、個々人のライフコースの変化、生涯未婚率や離婚率の上昇などに伴い、「家族」は、構造と機能の両側面において多様化してきている。他方では、このような実態が「家族の崩壊」として認識され、「家族」規範が強化される傾向も存在する。今回の眞子「婚約」の出来事のなかで考えさせられるのは、やはり、現行の安倍政権が目論む「家族」政策のなかで、「正しい結婚」とそこから形成される家族のあり方が、再強化されていくことであろう。

二〇一二年に発表された「自民党憲法改正草案」については、フェミニズムの立場からすでに多く議論され、その方向性が危惧されているところである。危惧されるべき点のひとつに「家族」をめぐる記述があ

らたに加筆されている点がある。同草案の二四条一項に記されているのはつぎのような文言である。

「家族は社会の自然かつ基礎的な単位として尊重される。家族は互いに助け合わなければならない」。

ここでは、それまでに存在しなかった「家族」をユニットとして定義し、かつ、相互の扶助を明記していることに特徴がある。このような「家族」を「社会の自然かつ基礎的な単位」としてみる家族観は、二〇一五年に最高裁において夫婦同姓が合憲であると判断された判決（二〇一五年十二月十六日）においても、また二〇一六年四月に施行された「女性活躍推進法」においてもみとれる。

法学者である清末愛砂は、自民党改憲草案における二四条と同時に、第二次安倍晋三政権以降に推進されてきた「女性活躍」に関する施策に注目し、女性のあいだに起こされる分断について考察している。現行憲法二四条の意義は「外部から見えにくい私的領域である家族における個人の尊厳と両性の平等を謳うことで、家庭内における男性支配からの克服や解放を求めるものとして解釈できる」点である（清末愛砂「女性間の分断を乗り越えるために——女性の活躍推進政策と改憲による家族主義の復活がもたらすもの」『平和研究 第四五号——「積極的平和」とは何か』、二〇一五年）。しかし、その二四条に「家族の助け合い」が導入されることにより、二つの問題点が生じると、清末は指摘する。ひとつには「家族構成員間の権力・支配関係があらうとも、そこから生じるさまざまな暴力を含む、DV等の家族内の問題を〈家族の絆〉の名の下で覆い隠すことで、社会の秩序を守ることを意味する」。そしてもうひとつには「福祉の縮小と自己責任」の問題である（清末前掲論文、七八―七九頁）。清末が危惧しているのは、「家族」がユニットとして措定されることと、安全保障政策とが結びついていることである。「国民」を国

家政策へ動員・協力させていくときに有効な手段となり得るのが、〈家族の絆〉の名の下での家族主義である」と（清末前掲論文、八〇―八一頁）。

わたしはそこにもう一点、付け加えたい。「家族」とは、男女の結びつきを中心としたユニットが「標準家族」とされてきたことを。まさに、いま、安倍政権が目論んでいることのひとつは、皇室における「結婚」をモデルとするように、異性愛主義の維持と再生産である。そこから取りこばれていくものに、同性愛者を含む異性とながわれない生き方や、シングル・マザー、離婚者など「標準家族」から外れたあり方がある。

国家政策を「家族」というユニットで支えていくことの問題。労働力（同時に兵力）としての「国民」再生産や、それを支えるための性別役割分業。すでに、そのような事態は生まれてきているのである。わたし自身は、これまで、戸籍制度と天皇制の結びつきや諸差別の問題から「反婚」という概念で研究や運動を進めてきた（拙著『レズビアン・アイデンティティーズ』洛北出版、二〇一五年）。このような現行政府の目論見のなか、今回の「婚約」、そして後につづくであろう「結婚」の出来事がどのように表象され、そして人びとの規範を再生産していくかは、しっかりとみていく必要があるだろう。同時に、取りこばされ、ステイグマを付与されていく存在が、いかに抵抗のためにつながっていくかが、いま、問われているのだと思う。

天皇代替わりにNO！ 全国津々浦々から騒然たる議論を！ 行動を—— 神奈川

のひろみ 京極紀子（「日の丸・君が代」の法制化と強制に反対する神奈川の会）

★一年前の天皇アキヒトの「おことば」にはぶったまげた。天皇ヒロヒトのXデー、昭和から平成への代替わりを経験した者として、いつか来る新たなXデーをどう迎え撃つか、漠然としたイメージは持っていたけれど不意打ちを食らった。

前回のXデーでは、市民運動・宗教者・労働組合等の連名で「天皇のいない社会を選択する神奈川共同声明（一九八九・一一）」を出した。みんなでさんざん議論し、「国民」という言葉を使わなかった声明。ちょっと自慢だ。「大喪の礼」当日は休日になり学校や役所は休みになったが、「悲しみの押し付け」を拒否して神奈川でも様々な取り組みが行われた。

当時の知事と県議会議長が「即位礼・大嘗祭」に税金を使って出席したことに対して、公費の返還・損害賠償を求めた住民訴訟——高御座に立つ天皇に対して、海部首相（当時）が低い場所から「万歳三唱」を行ったことから「バンザイ訴訟」と名付けられた裁判は、一〇年以上にわたって最高裁まで争われたが敗訴。最高裁は「即位礼・大嘗祭は社会的儀礼であって、宗教活動には当たらない」とした。神道儀式に則り行われるものが社会的儀礼などでないのは明らかだが、司法も天皇制の前には思考停止だ。天皇儀式に関わる「政教分離」問題を問うものとして、大きな意義を持つものだったと思う。

★「退位特例法」の第1条には、国民は天皇を「深

く敬愛し」、「お気持ちを理解し、これに共感」するというとんでもない「趣旨」が盛り込まれた。「国民」と勝手にひとくくりにされてはたまらない。異議申し立ての声はあちこちからあげた。

で、今、私たちは日本基督教団神奈川教区ヤスクニ・天皇制問題小委員会のみなさんと共催集会を準備している。生前退位とは何か？ 様々な角度から掘り下げ、議論し、問題を根本から考えたいと思う。天皇自身が自らの超違憲の行動を「象徴としての行為」と言い正当化し、天皇制をより拡大しようとしている。差別の大元である天皇制を無くせるかどうか、問われているのは私たち自身だ。

「リベラル」な仮面をかぶったアキヒトはかなり手強い。が、天皇制にまつわる課題は拡散し、突っ込みどころは満載かも？ とも思う。

吉祥寺の「天皇制いらないデモ」には励まされた。六月の「帰ってきた天皇制いらないデモ」には一一月を倍する二二〇人が集まり、思い思いの表現で「天皇制いらない」の声を上げた。「身分差別性差別の象徴天皇制いらない」と書かれた超巨大な横断幕。「人民有用 天皇無用」とか、「税金のムダ」、「君が代いらない」、「差別の象徴」「家父長制に反対」「女性天皇、女性宮家どっちもいらない！」……、思い思いのプラカード。アピールも多彩だ。ほらね、天皇制をい

らないと思う切り口は百通りも二百通りもある。

★「日の丸・君が代」は天皇制の象徴だと思う。法制化以前、昭和天皇最後の巡幸地として、国（一九八七年）開会式参加を名目にした天皇の沖縄訪問のために、沖縄の学校現場では「日の丸・君が代」が強制された（ヒロヒト沖縄訪問は結局実現しなかったが）。Xデーでは学校をはじめ官公庁や企業で「黙とう」や「弔旗」が強制されたが、教職員や保護者、地域の取り組みで、弔旗の掲揚を拒否した学校も多々あった。

今、学校では東京や大阪等入学式や卒業式の「君が代」斉唱時不起立で懲戒処分が乱発され、教職員の思想信条の自由が裁判で争われている。二〇〇六年教育基本法を「改正」して「教育の目標」に愛国心を盛り込んだ安倍政権（第一次）は、現在の第二次政権で悲願だった道徳の教科化を実現。森友学園問題で注目された「教育勅語」だが、教えてもよしとする閣議決定がなされるなど、天皇を敬愛する教育は公教育の場へ広がり始めている。

二〇一八年の退位から二〇一九年新天皇即位、そして二〇二〇年東京五輪と憲法「改正」？ 向こう側のスケジュールは極めて明確だ。「天皇のいない社会を選択する」チャンス逃がさないために、始まったXデーを闘う騒然たる議論と多彩な運動を神奈川からも展開したい。

まずは、九月二日、神奈川の集会へ。反天連の天野恵一さんをメインスピーカーに、2部では桜井大子、遠田哲史、堀江有里の三人から問題提起の発言をもらい討論する。この集会を皮切りに継続した取り組みを考えていくので引き続き注目、参加もよろしくお願ひします（インフォメーション・チラシ参照）。



『教育に浸透する自衛隊——「安保法制」下の子どもたち』（同編集委員会）

有馬保彦（市民の意見30の会・東京）

二〇一一年の東日本大震災後から、東京都教育員会は東京都立高校で宿泊しての防災訓練を実施していたという。

本来、自衛隊（軍隊）は、組織的な戦闘集団であり、治安出動、防衛・侵攻を目的とする組織。憲法第九条で、日本国の交戦権が否定され、戦力の保持が否定されている中で創設された自衛隊は、憲法のもとでは存在できないもの、長い間「日陰者」であり続けていました。

また、その状態は、国民の中におくあつた護憲意識もあいまって、自衛隊を日陰者として長く置いてきたものでした。それを何とか、日陰者から一人前にするために多くの努力・施策を打ってきました。

自衛隊は「国民に愛される自衛隊」のスローガンのもと、戦争をする自衛隊の姿ではない、国民のための自衛隊としての災害出動あるいは基地の開放を通して子供たちに武器や戦闘機、戦車あるいは営舎の直角の壁を走って降りる（銃を構えて）姿を見せつけるなどをする「ちびっ子大会」を地道におこなってきています。七〇年代は、「ちびっ子大会」反対のビラには、自衛隊はまだ神経をとがらせていました。千葉県習志野基地（陸自空挺団、関東大震災時には東京で社会主義者弾圧・朝鮮人虐殺の引き金を引いた）で、その界隈の家々、アパートに撒いた際には、理由はわかりませんが、一度だけ翌年の「ちびっ子大会」は開催されませんでした（ビラが功を奏したと私たちは当時思いました）。

これまでの各地での災害出動を通じて、災害対策組織としての自衛隊への国民の認知がひろがっているのも事実です。世界各国の軍隊は、災害出動を軍事行動（治安出動も含む）として位置づけるとともに「非対称戦争」のなかで陸軍（陸上自衛隊）の存続の意義の一つをそこに見出しています。

「2013年から自衛官募集（一般候補生Ⅱ正社員にあたる）は毎年2割減のペースで激減している。一年を通して募集している非正規雇用の自衛官候補生（初年度は陸自二年、海自・空自の任期制）も同様」です（37P・38P）。

東京都武蔵村山市立第五中学校で、米空軍横田基地で「ミニ・ブートキャンプ」（新兵訓練）が生徒希望者三三人の参加で、米軍兵士の指導のもとおこなわれました。（35P）。このパンフレットでは、地域交流と書かれています。五中の学校フェスティバルの一環でもあったようです。このパンフレットをもとに調べてみたら、ホームページ「YOKOTA AIR BASE」の一面を飾っていました。子供の姿を背景に女性兵士の凛々しい顔が大きく写っていました。

パンフレットによれば、一方では「教育現場の劣化」でもあるといいます。練馬区教育委員会（練馬区には、陸上自衛隊第一師団の駐屯地と官舎がある）は、「自衛隊職場体験実施校について」で「2013年度には練馬、陸上自衛隊広報センター（朝霞駐屯地内、共に陸自）へ中学生八校40人と小学校8人が参加した。2014年度には、練馬、

立川駐屯地（陸自、東京都立川市）、入間基地（空自、埼玉県狭山市）へ中学校五校、26人が参加した」と発表した（38P）。

二〇一三年の事例では、中学校長が「各種訓練体験」として「部隊見学の申し込み」を行い、練馬駐屯地では、陸自第一特殊武器防護隊が部隊見学を担当、陸自高等工科学校の説明、基本訓練、行進訓練、核・化学・生物兵器戦闘に対処する迷彩服の試着が行われたという（39P）。

ここまで積極的な、教育現場から自衛隊あるいは米軍へ愛着をもつて教育の一環として進んで軍隊・軍事教育を進めているのかと思うとゾッとする。

陸自高等工科学校は、かつて陸自少年工科学校とよばれ、中学を卒業後、三年間陸自の訓練および高校の授業が受けられる各種学校で、その三年間給与が支払われる。神奈川県横須賀市にある。『反戦自衛官』（現代評論社、一九七〇年）によれば、中学時代お弁当を持って学校に通った宮崎県の子どもであった小西誠氏は、この少年工科学校を生活の糧として入学をし、立派な自衛官を目指した。

この高等工科学校の説明を部隊見学のなかで時間を大きく割いて行う目的は何か、なぜ教育現場に執拗に入り込もうと自衛隊が行政機関と共に行おうとしているか。このパンフにはその事例がある。最後に、42Pで運動の進め方として「自衛隊員も含めて、敵を作らず」に賛同します。

みたび

太田昌国の夢は夜ひらく 87

「一帯一路」構想と「古代文明フォーラム」



去る五月、北京で「一帯一路国際協力サミットフォーラム」が開催された。およそ一三〇カ国の政府代表団が出席する大規模な国際会議だった。元来は、中国の習近平総書記が二〇一三年に行なったふたつの演説で（カザフスタンのナザルバエフ大学とインドネシア議会）明らかにした構想の延長上で開かれた国際会議である。この構想で目論見られている世界地図は、当時の新聞でたびたび報道されて、私も注目していた。南北の中央部には、中国大陸がどっしりと構えている。その北に広がる「シルクロード経済ベルト」（「一帯」）は、中国西部から中央アジアを経由してヨーロッパに至るが、シベリアを含めた広大なロシアの全領土を覆い尽くしている。南に位置する「21世紀海上シルクロード」（「一路」）は、中国沿岸部から東南アジア、インド亜大陸、アラビア半島を経て、アフリカ東海岸部へと至るものである。このふたつの地域で、インフラストラクチャー整備、貿易および資金の往来を促進しようとする計画である。習近平は、ふたつの演説地を周到に選んだと言えきだろう。ここに描かれる世界地図では、何事につけても口出しをする欧米諸国の影は薄い。だが、EUは「一帯一路」構想の支持を表明しており、日米両国も北京会議には閣僚級の代表団を派遣した。いずれ

も、構想が「オープンかつ公正、透明に」実施されるなら、積極的に協力する意思を表明している。中国が交通インフラ整備の要としているのは高速鉄道網の建設だという。日本の新幹線の派生技術として始まった中国の高速鉄道は、国産技術の水準を急速に高め、自信をつけている。このことをひとつ取ってみても、「一帯一路」事業が孕み得る経済的な可能性（利潤の獲得、とはっきり言っておこう）を思えば、どの国の経済界もこれに参画することを欲して政府に働きかけたであろうことは疑うべくもない。

歴史論・文明論としての魅力は備えているかに見える「一帯一路」構想は、経済合理性に基づいて実施されるしかないから、世界各地の「近代化」が歴史に刻んだ負性を帯びざるを得ない。各国を支配するのが、強権政治を事も無げに行なう連中である限り（東アジアだけを見ても、中国・朝鮮・日本を例に挙げればわかる。新政権が誕生したばかりの韓国は、その行方を今しばらく見守るとしても）、「政経分離」による協力体制がもたらす未来像は、決して明るくはない。経済発展のために常に「フロンティア（辺境）」を必要としている資本主義体制にとって、今後二度とないビッグ・チャンスとすら言えよう。広大な各地に住まう「辺境

の民」を蹴散らし、それはまさに、「真昼である。特別急行列車は満員のまま全速力で馳けていた。沿線の小駅は石のように黙殺された。」といった状態をなすだろう。

もうひとつ、去る四月に、中国が主導し、ギリシャと語らってアテネで開催した閣僚級の国際会議にも注目したい。「古代文明フォーラム」である。参加国は、上記の両国に加えて、エジプト、イラン、イラク、イタリア、インド、メキシコ、ペルー、ボリビアの計一〇カ国である。古典的な「世界四大文明圏」に、五世紀有余前に世界史に「登場」した南北アメリカ大陸の、アステカ、マヤ、インカの古代文明圏を組み入れた国際会議であることが、見てとれる。描かれる世界地図からは、ここでも、従来はあまり見たこともない世界史像が浮かび上がってきて、その魅力がないではない。たかだか二五〇年足らずの歴史をしか刻んでいない米国は、姿・形も見えない。ギリシャとイタリアを除くヨーロッパ諸地域も、古代にあつては「辺境」の地であつたから、同じことだ。

発表されたアテネ宣言によれば排外主義やテロなど不寛容な精神の広がりを防ぐために文明間の対話を進め、歴史の知恵を生かすことを唱っている。異論は、ない。だが、「古代文明フォーラム」にも、私は疑念をもつ。古代史研究は、自民族の文化と国家の起源を、「ヨリ古く」「ヨリ大きい」ものにすることに価値を置く方向ではたらくことがある。それが高じれば、異なる文明間に、「発展段階」による優劣をつける歴史観に流されてゆく。習近平が次々と繰り出す外交方針は、人目を惹く魅力もある。だが、「中華」の悠久の歴史を思う存分活用しようとするその方針には、検証と批判が不可欠だろう。（八月五日記）

マスコミの
「天皇制」
14

天皇の天皇による天皇のための「生前退位」反対！

〈壊憲天皇明仁〉 その12

天野 恵一



七月一日に「平成天皇代替り状況」下の反天皇

制運動づくりをテーマとした小さな討論会がもたれた。問題提起者の一人であった私は、この間の天皇自身による「生前退位」希望のビデオメッセージ（二〇一六年八月八日）からはじまり、それに突き動かされてそのための「特例法」が成立（六月九日）。この流れをふまえた、かくのごとき状況に切り込むために発すべきスローガンを一つ考えた。残念ながら時間の制約もあり運動をめぐっての活発な討論はまったく不発であったこの集まりで提起したスローガンは（天皇の天皇による天皇のための「生前退位」反対！）である。それは、昭和天皇Xデー状況下で、私たちが積極的に使い、全国の反天皇制運動の渦中で、主に強いられたい自衛に対する反発をバネに自生的に生まれ、広く飛び交った（民主主義に天皇はいらない！）のスローガンをふまえながら、象徴天皇自身が自分の政治意思で、自分を根拠づけている憲法の規定をけとばす行為をしているこの事態をこそ、ストレートに批判するものとの思いから、ひねり出したものである。

原武史は北田暁大のインタビュに答えて、天皇のビデオメッセージについてこう語っていた。

「今回衝撃的だったのは、憲法で規定された国事行為よりも、憲法で規定されていない宮中祭祀と行幸こそが『象徴』の中核なのだということが天皇自身が雄弁に語ったことです」。（『毎日新聞』

二〇一六年八月二七日）。

象徴天皇自身が「象徴」とは何かを自己規定するという行為自体が「国民主権」憲法破壊であり、ましてや憲法上禁止されている行為こそが、必要だなどと、天皇が公的に発言してみせることなど許されない。原は、この事に十分自覚的である。しかし、こうした天皇の発言は、全マスコミによって「そのお気持ちを尊重すべし」と大歓迎され、憲法学者のまともな批判の声は、ほとんど上げられず、その状況をテコに安倍政権は、一方で「有識者」会議を組織し、国会は、討論を封じ込める翼賛（全会一致）スタイルをつくりだし、「生前退位」を認める法案を成立させてしまった。

安倍改憲反対の護憲運動や護憲学者やリベラルといわれているインテリの中からは、アキヒト天皇賛美や同情の声は上がったが、天皇自身と安倍政権の協力関係でできあがってしまったこの「特例法」づくりへの正面からの批判の声はもちろん、原のような当然の疑問の声すら、ほとんどマスコミからはシャットアウトされてしまったままだ。

「憲法違反では」の声は、天皇は生きていれば天皇なのだから生前退位などありえないという神権天皇主義者の方からのものだけがマスコミに浮上しているだけ。

安倍首相自身が、この神権天皇主義者という判断を前提に、天皇（皇族）の意思vs安倍首相という対

立面がマスコミでは一面的にクロージアアップされ（女系天皇を認める方向での皇室典範改正にまで踏みこみたい（天皇）と、それにはとりあえず反対の（安倍）という対立は確かに存在しているが）、反安倍右翼政権の心情を「平和天皇アキヒト」賛美の方向へムード的に誘導するマスコミ操作。戦後憲法全面破壊が、護憲派や「リベラル」を大きくまきこんで展開されているという異様な政治局面。この「平成Xデー」のナショナリズム攻撃に、どう抗するのか。ここに、現下の反天皇制運動の中心テーマがあるはずだ。

「有識者会議」の座長代理であった御厨貴は、その活動を総括している論文（『天皇退位』有識者会議の内実―皇室の行く末を決めた七ヶ月を振り返る）『文藝春秋』二〇一七年七月号）で、以下のよう主張している。

「おそらく皇室の問題は、リベラルな政治家よりも保守的な政治家のほうが改革はやりやすいでしょう。今回の退位に関しても、保守的な総理は本来は賛成ではなかったはず。しかし、国民の支持や天皇のお気持ちを考えその方向を了としました。そのような判断ができる政治家が総理のうちに議論を進めるべきなのです。／これは憲法改正に匹敵する重要な問題です。秋篠宮家の真子さまがご結婚に向かって歩まれていることも報じられました。女性皇族の扱いを考える上で、今ほどよいタイミングはありません」（傍線引用者）。

代表的御用学者のリアルな政治判断である。安倍改憲政権と一体化した「護憲」天皇の立憲主義（国民主権）憲法破壊。（天皇の天皇による天皇のための生前退位）を許すな。

反天皇制運動

7月1日～7月31日

【7月1日】

美智子◆東京都新宿区の日本点字図書館を訪れ、点訳した楽譜の普及を目指す「点字楽譜利用連絡会」(点譜連)の集い出席。視覚障害があるホルンやフルート奏者の演奏を鑑賞。

歌会始◆宮内庁が、翌年1月の歌会始の儀(題は「語」)の選者5人を発表。

【7月2日】

徳仁◆東京・目白の学習院創立百周年記念会館で開かれた学習院OB管弦楽団の定期演奏会に出演し、ピアノを演奏。

【7月3日】

「生前退位」◆明仁の退位を実現する特例法成立を受けて、京都や奈良といった皇室とゆかりが深い自治体から、退位後の長期滞在や、離宮建設を求める声が上がリ、退位後は「私的活動」が増えることが予想されるとして「公務を離れて、ゆっくり過ごしてもらえれば」と期待が高まっていると報道。

伊勢神宮◆伊勢神宮(三重県伊勢市)が、大宮司の鷹司尚武が退任し、祖父が元皇族の小松揮世久が新大宮司に就任。

「慰安婦」問題◆「従軍慰安婦」に関する著書を「捏造」と言われ、名誉を傷つけられたとして中央大の吉見義明・名誉教授が桜内文城・元衆院議員に損害賠償を求めた訴訟で、最高裁第1小法廷(小池裕・裁判長)が6月29日付で、吉見名誉教授

の上古を退ける決定をし、請求を認めなかった東京高裁判決が確定したと報道。

辺野古弾圧◆内閣府沖縄総合事務局の職員が、米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)の名護市辺野古移設の反対運動の監視業務などに動員されていることを、総合事務局の労組幹部が共産党機関紙で批判し、国家公務員法の信用失墜行為に当たるとして訓告処分を受けていたことが、同事務局などへの取材で分かる。

【7月4日】

裕仁、良子◆昭和天皇と香淳皇后が1957年10月、静岡県沼津市を視察した際のスナップ写真が、60年ぶりに見つかったと報道。高知県南国市のフリーカメラマン都築憲司が青年時代に自ら撮影したもので、所蔵する写真を整理する中で確認したという。

【7月5日】

眞子婚約◆宮内庁が、眞子と、国際基督教大の同級生で法律事務所勤務の男性の婚約内定後の記者会見を、8日午後3時から東京・赤坂御用地内の赤坂東邸で行うと発表。宮内庁の山本信一郎長官による婚約内定の記者会見を同日午前11時15分から宮内庁で行うことを明らかに。

【7月6日】

「生前退位」◆明仁の退位を実現する特例法成立を受け、京都府や京都市などでつくる「京都の未来を考える懇話会」が会

合で、退位後の明仁、美智子の京都滞在や園遊会など皇室行事の開催を求める国への提案書素案を示す。「父祖の地でひとときを過ごされる御心があればこの上ない喜び」として、政府に対し、滞在場所として想定される京都御所などの環境整備を要望し、皇室行事開催を求めたと報道。京都御所や二条城などでの園遊会や茶会の開催、宮中行事の復活などの検討を提案し、天皇即位に伴う関連儀式や行事について「何らかの形で役に立ちたい」。

ミサイル対策◆原子力規制委員会の田中俊一・委員長が、関西電力高浜原発がある福井県高浜町で住民と意見交換。北朝鮮のミサイル攻撃を想定した対応を問われ、「冗談」と断りつつ「北朝鮮の技術がどの程度か分からないが、小さな原子炉に落とすなら東京都のど真ん中に落とすたほうがよっぽどいい」。

【7月7日】

明仁、美智子◆九州豪雨の被害について「見舞いの気持ち」を、河相周夫・侍従長を通じて福岡県の小川洋知事と、大分県の広瀬勝貞知事に伝える。災害対策に従事している関係者への「ねぎらいの気持ち」を伝える。

明仁◆合成ゴム製造などを手掛ける化学メーカー「日本ゼオン」(本社・東京)の川崎工場(川崎市)と同じ敷地にある研究施設を視察。

徳仁、雅子◆宮内庁東宮職が、徳仁が献血運動推進全国大会の臨席などのため予定している11・12日の秋田県訪問に、雅子が体調に問題がなければ同行する、と

発表。

眞子婚約◆宮内庁の加地隆治・宮務主管が、九州豪雨で甚大な被害が出ていることを受け、8日に予定していた眞子と、国際基督教大の同級生で法律事務所勤務の男性の婚約内定の発表を延期すると明らかに。加地主管によると、豪雨を気に掛けていた2人が現地の状況や被災者の身を案じ、発表の延期を希望し、明仁、美智子と秋篠宮、紀子が2人の意向を尊重し、了承したと報道。

【7月9日】

明仁、美智子◆独居の高齢者や低所得世帯などの生活を手助けする民生委員制度の創設から今年で100年となるのを記念し、厚生労働省などが東京都内で開いた全国大会に出席。

侍従◆宮内庁が、侍従の北風幸一が、文部科学省へ復帰する人事を発表。

【7月10日】

侍従◆宮内庁が、侍従の野村護が総務課長に就任し、総務課長の直江利克が警察庁総務課長に異動する人事を発表。

【7月11日】

徳仁、雅子◆第53回献血運動推進全国大会の臨席などのため、羽田発の民間機で秋田県入り。秋田空港で幼稚園児らの出迎えを受ける。潟上市の市立大豊小学校で、小学6年の児童らが地元の歴史や文化などを学びながら、PR方法を考える授業を視察。秋田市の県立博物館を訪問。農業高校の生徒らがわらで履物を作る様子を見学。

彬子◆故寛仁の長女彬子が、客員研究員

として勤務する学習院大国際研究教育機構の仕事で美術関連のシンポジウムなどに出席するためとして、羽田発の民間機で英国に出発。

久子◆日本とアイルランドの国交樹立60周年記念行事に出席するためとして、ルクセンブルクに立ち寄った後、アイルランドに滞在していた故高円宮の妻久子が、羽田着の民間機で帰国。

【7月12日】

徳仁、雅子◆秋田市の県立武道館で開かれた第53回献血運動推進全国大会に出席。徳仁があいさつの冒頭、福岡、大分両県で大きな被害が出た九州北部の豪雨に触れ「大雨による災害で亡くなられた方々に心から哀悼の意を表します」。徳仁が午前、日本赤十字秋田看護大・同秋田短大（秋田市）で介護演習などを視察。雅子は体調を整えるため視察を見送る。2人は大会後、秋田空港発の民間機で帰京。

【7月17日】

明仁、美智子◆横浜を訪れ、横浜港で保存・展示されている帆船「日本丸」などを視察。海からの高さが最大約45メートルのマストに登った船員らが「登橋礼」を行い、「海の日おめでとう」と声を上げ、帆を張り終えた甲板上の船員らから登舷礼を受ける。同じ敷地内にある博物館を見学。日本郵船歴史博物館（同市）を視察。
【慰安婦】問題◆韓国大統領府の朴洙賢・報道官が、朴槿恵・前政権下で開かれた大統領秘書室長主宰の首席秘書官会議で、2015年12月の「従軍慰安婦」問題を巡る日韓合意に関し「適法ではない指示」

が出されていたことを記す記録を大統領府内で発見したと発表。

日米印共同訓練◆海上自衛隊と米、インド両海軍が、3カ国による過去最大級の共同訓練「マラバール」をベンガル湾の洋上で公開。

【7月18日】

秋篠宮、紀子◆神戸港の開港150周年を記念するイベント「海フェスタ神戸」の式典や祝賀会出席などのため、1泊2日の日程で、神戸市入り。中央区北野町にある「異人館」を見学。
戸籍公表◆連舫・民進党代表が、自身の「二重国籍」問題を巡り戸籍謄本を公表したことにについて記者会見で「前例とすることは断じて認めることはできない。私で最後にしてほしい」。

国体◆日本体協が東京都内で理事会を開き、2020年の第75回国体の開催地を鹿児島県に正式決定。
【7月19日】
秋篠宮、紀子◆「海フェスタ神戸」で行われる祝賀会に出席し、1泊2日の日程を終え、羽田着の民間機で帰京。

【海の日】◆神戸市中央区のホテルオークラ神戸で、神戸港の開港150年や「海の日」を祝うイベント「海フェスタ神戸」の記念式典が行われる。

靖国神社◆靖国神社の元幹部が、極東国際軍事裁判（東京裁判）で起訴され、絞首刑となった東条英機元首相らA級戦犯

合祀の在り方を「論理の一貫性に欠ける」と批判する著書を近く発売することが分かる。

朝鮮学校◆国が朝鮮学校を高校無償化の適用対象から外したのは違法として、広島朝鮮学校の運営法人「広島朝鮮学園」と卒業生らが処分取り消しや在学中の受給相当額に当たる計5600万円の損害賠償などを国に求めた訴訟の判決で、広島地裁が、原告側の全面敗訴を言い渡す。

【7月20日】

徳仁◆ニューヨークの国連本部で開かれた国連の「水と災害に関する特別会合」で徳仁のビデオによる基調講演が放映される。水関連の災害の被害者数の削減などを掲げた国連の「持続可能な開発目標」に触れ「目標達成の道のりは長く困難に見えるが、これまでの経験や教訓、科学技術をフル活用すれば必ず道は開けるのではないか」。

裕仁◆1989年1月7日の昭和天皇死去の約2週間後、英国のジョン・ホワイットヘッド駐日大使（当時、故人）が、若き日の昭和天皇は「性格的に天皇を務めるのに向いていなかった」とする内容の報告書を作成していたことが、英公文書館が機密解除した公文書で分かる。報告書は1月23日付でサッチャー政権のハウ外相（同）に宛て、天皇の来歴や太平洋戦争などへの関与、戦後に果たした役割を11ページにわたって記していると報道。
新国立競技場◆2020年東京五輪・パラリンピックのメインスタジアムとなる新国立競技場建設の地盤改良工事に従事

していた都内の建設会社勤務で入社1年目の男性社員＝当時（23）＝が3月に自殺。

【7月21日】

明仁、美智子◆皇居・御所で、修復作業が終わった絵巻物「春日権現験記絵」を鑑賞。／九州北部の豪雨で被害が甚大だった福岡、大分両県に見舞金を贈る。

徳仁、雅子◆宮内庁東宮職が、徳仁が全高校総体（インターハイ）の開会式などに出席するため27、29日に予定している山形県訪問に、療養中の雅子は同行しない、と発表。宮内庁によると、東宮職医師団が「厳しい暑さが続く中、現在の雅子さまの体調を考慮すると2泊3日の地方訪問は困難」と判断したと報道。

徳仁◆ニューヨークの国連本部で開かれた国連の「水と災害に関する特別会合」で徳仁のビデオによる基調講演を放映。

佳子◆大学の交換留学プログラムを利用し、9月から翌年6月まで英国リーズ大に留学することが、閣議で報告される。

宮内庁職員処分◆栃木県にある宮内庁御料牧場で、職員2人が部下の職員に業務指導を理由に暴行を繰り返したなどとして、宮内庁が、1人を減給10分の1（3カ月）に、残る1人を戒告の懲戒処分。減給処分を受けた職員は、酒気帯び運転をしていたことが判明し、処分理由に加えられたと報道。

【7月24日】

明仁、美智子◆静養のため、東北新幹線でJR東京駅を出発、栃木県那須町の那須御用邸に入る。那須塩原市の花弁農家

「体育の日」◆2020年東京五輪の開会式が行われる7月24日を、都内の道路交通の混乱を避けるためとして、この年に限って「体育の日」を10月第2月曜日から開幕日に移す形で休日とする案が大会関係者の間で浮上していることが分かる。

〔7月25日〕

佳子◆静岡県御殿場市で開かれた第51回全日本高校馬術競技大会の開会式に出席し、あいさつ。

〔7月26日〕

米艦防護◆海上自衛隊が、青森県の陸奥湾で、安全保障関連法に基づき、自衛隊が平時から米軍艦艇を守る「武器等防護」の実動訓練を初めて実施したと明らかに。

〔7月27日〕

明仁退位◆菅義偉・官房長官が記者会見で、明仁の退位と元号「改正」の期日を9月に決定、公表する方向で検討に入つたとする一部報道に関し「内容は承知していない」。退位に向けた準備について「宮内庁を中心に関係省庁が連携して検討している。円滑な退位が遅滞なく実施できるよう最善を尽くしたい」。新天皇の即位に伴い新たに適用する元号を巡り「国民生活への影響などを考慮しながら検討していく必要がある」。

徳仁、雅子◆徳仁が、全国高校総体の開会式臨席などのため、JR東京駅から新幹線を利用して山形県入り。同県村山市の市民交流施設「甌葉プラザ」を訪れ、地元の小中学生11人による模造刀を使った居合を見学。雅子は負担を考慮し、同行を見送ったと報道。

徳仁、雅子◆徳仁が、全国高校総体の開会式臨席などのため、JR東京駅から新幹線を利用して山形県入り。同県村山市の市民交流施設「甌葉プラザ」を訪れ、地元の小中学生11人による模造刀を使った居合を見学。雅子は負担を考慮し、同行を見送ったと報道。

防衛省トップ◆稲田朋美・防衛相が、閣僚を辞任する意向を固め、黒江哲郎・事務次官、岡部俊哉・陸上幕僚長の事務方、陸自両トップも辞任すると、政府関係者が明らかに。

高江ヘリパッド建設弾圧◆米軍北部訓練場（沖縄県東村など）のヘリコプター離着陸帯（ヘリパッド）建設を巡り、抗議活動中に防衛省職員にけがをさせたとして、傷害などの罪に問われた被告に、那覇地裁が、懲役1年6月、執行猶予3年（求刑懲役1年6月）の判決を言い渡す。

高浜原発◆稼働中の関西電力高浜原発3、4号機（福井県高浜町）が北朝鮮のミサイル攻撃を受けた場合の広域被害を訴え、大阪府高槻市の女性らが運転差し止めを求めて申し立てた仮処分の第1回審尋が、大阪地裁（森純子・裁判長）であり、関電側が「具体的な危険が切迫していない」と却下を求める。

〔7月28日〕

明仁、美智子◆静養先の栃木県那須町の那須御用邸から、東北新幹線で帰京。

明仁退位◆明仁の退位の期日を巡り、決定と公表を従来の想定よりも前倒しする案が政府内で浮上したことが分かる。関係者が明らかに。時期の決定は翌年夏ごろと見込まれていたが、年内となる可能性が取り沙汰されていると報道。

徳仁◆山形県天童市の県総合運動公園で、全国高校総体の総合開会式に出席し、あいさつ。天童市の将棋資料館を訪れ、将棋の製作実演などを見学。「私は」昭和天皇と将棋を指したことがあります」。

同市のホテルで、総体会場となった宮城、山形、福島3県の高校生と交流。

朝鮮学校◆国が朝鮮学校を高校無償化の適用対象外としたのは違法として、大阪朝鮮高級学校を運営する学校法人「大阪朝鮮学園」（大阪市）が処分の取り消しと適用の義務付けを求めた訴訟の判決で、大阪地裁が原告側の全面勝訴を言い渡す。

日米共同訓練◆陸上自衛隊北部方面隊が、8月に北海道で実施する米海兵隊との共同訓練に、米軍の新型輸送機オスプレイ6機が参加すると発表。

〔7月29日〕

美智子◆18日に105歳で死去した聖路加国際病院（東京）名誉院長、日野原重明の葬儀が、東京都港区の青山葬儀所で営まれる。葬儀の前に、「私的」な交流があったとして美智子が弔問。美智子の撮影は許可されず。

徳仁◆山形市総合スポーツセンターで、総体のバレーボールの試合を観戦。山県県朝日町のワイン醸造会社を訪れ、製造工程を視察。山形県庁を訪問した後、新幹線で帰京。

〔7月30日〕

秋篠宮、佳子◆宮城県で開かれる全国高校総合文化祭の開会式などに出席するため、東北新幹線で仙台市を訪問。JR仙台駅に到着後、震災の記憶を語り継ぐ拠点として前年2月に開設された「せんだい3・11メモリアル交流館」を訪問。「仙が台の杜水族館」を訪れる。「せんだいメディアテーク」で総合文化祭の新聞、文芸、写真部門の作品を鑑賞。

朝鮮半島情勢◆北朝鮮の大陸間弾道ミサイル（ICBM）発射を受け、米空軍と航空自衛隊が、九州西方から朝鮮半島沖の空域でB1戦略爆撃機とF2戦闘機による共同訓練を実施。

〔7月31日〕

徳仁、雅子◆北海道函館市と沖縄県の小中学生でつくる「豆記者」約60人を、東京・元赤坂にある東宮御所に招き、懇談。

秋篠宮、佳子◆仙台サンブラザホール（仙台市宮城野区）で開かれた全国高校総合文化祭の開会式に出席。サンブラザホール前の路上で、国内外から集まった高校生らのパレードを見る。これに先立ち、県美術館（同市青葉区）で美術・工芸部門の作品を鑑賞。

「慰安婦」問題◆韓国外務省が、「従軍慰安婦」問題の解決に関する2015年の日韓合意の成立経緯を検証する作業部会を発足させる。

南スーダン派兵日報隠蔽◆自民党が党本部で開いた国防部会で、南スーダン国連PKO部隊の日報隠蔽問題を巡り「なぜ公開しなければならないのか。本来は公開すべきではない」などと情報開示に否定的な意見が相次いだと報道。

オスプレイ佐賀配備◆陸上自衛隊が導入する新型輸送機オスプレイの佐賀空港（佐賀市）配備計画について、配備予定地を保有する佐賀県の有明海漁協が反対を表明。徳永重昭・組合長が記者団に「これが意見集約だと思ってい。国の公共事業への不信心はなくなるらない。もう反対だ」。

戦争の「真実」

障害者を分断するパラリンピック

「2020オリンピック災害」おことわり連絡会（おことわりリンク）は、東京五輪を日常に対する「災害」と捉え、様々なテーマの学習会で問題提起をはかっている。第三回となる学習会（第一期・全六回）では、「パラリンピックは障害者差別を助長する」と題し、パラリンピックに出場する一部のスポーツエリートが掲げられることで、障害者が分断されることを議論した（七月一日@千駄ヶ谷区民会館）。

まず、ますだらなさん（障害児学校労働者）が、「学校ではオリパラ教育が当然のように強制され、反対する教員は排除される」と実際の現場状況を報告した。ますださんは、都教委が進めるオリパラ教育のプロジェクトの一つとして、「世界ともだちプロジェクト」を例に挙げ、国際理解・交流と称するボランティア動員やオリパラ学習ノートの活用が義務化されていることに警鐘をならした。

次に、元教員でもある北村小夜さんは、「パラリンピックばかりが世間から注目を浴びて、頑張っている障害者像が歪曲されて伝播している」と指摘。同じ種目でも障害の度合いでクラス分けがなされ、一見公平にみえても、できない障害者を

排除する仕組みに他ならないと強調した。また、戦傷者を社会復帰させるための手段としてスポーツが用いられたことから、パラリンピックが始まったという歴史についても紐解かれた。

さらに北村さんからはワークシヨップも提案された。来年度から小学校で使用される道徳教科書の抜粋を読み、感想を記すという疑似授業を児童になったつもりで受けた。「大人」になってしまっている参加者はヤイノヤイノと突っ込みをいれていたが、障害者理解の名の下、オリパラ教育がもたらす児童への悪影響を実感する貴重な時間だった。次回のおことわりリンク学習会（一〇月九日）では、北村さんから「道徳授業」のフィードバックがあるようなので、皆さまぜひご参加を！乞うご期待！

（東京オリンピックおことわりリンク／児玉啓太）

語ろう・謀ろう・創り出そう天皇代替わりを許さないうねりを

七月一日、渋谷区勤労福祉会館で「天皇代替わりを撃つ 連続講座第四回」を開催した。

主催者は、今日は各地で反天皇制運動に取り組んでいる四人を発言者に迎えた。昨年の天皇メッセ以降、肅々と「生前退位」法成立まですすんでいる。改憲、戦争機運が醸成さる中で、大いに語って違いを認識しつつ、天皇代替わりを許さないうねりを作りだそうと訴えた。

発言の一人目の井上森さん（立川自衛隊監視テント村）は、「反天皇制共同体はあるのか」をテーマに据えて、天皇制と別の「共同性」と対置することで天皇制をなくせるのか、共同体からはじき出された「ふきだまり」にこそ反天皇制運動高揚の芽があるのではないかと問題提起をした。

加藤匡通さん（戦時下の現在を考える講座）は、戦時下の抵抗運動を学ぶ中で社会科学を学ぶことの重要性を確信し、二〇一九年茨城国体を視野に入れて天皇Xデーとの闘いに向けた学習会を積み重ねている。東京中心の運動ではなく、「国民の総意」を打ち砕くのは、それぞれの生活圏で声を上げることが重要だと訴えた。

天野恵一さん（反天皇制運動連絡会）は、ヒロヒトXデーの時は、「天皇の政治利用反対」という護憲派と「天皇の国事行為そのものが政治的行為」とする反天皇制運動が、違いを明確にしたうえで共闘した。しかし今回は、護憲派から違憲との声も上がらず、天皇制批判が表にでるのは右翼だけという状況である。

吉田宗弘さん（反戦反天皇制労働者ネットワーク）は、今回の法律は、天皇の意向という政治権力の行使とそれを受けた国家権力によつて制定された。「退位特例法」は中身も問題だが、決まり方自身に大きな問題がある。人民主権が否定され天皇主権の現代的復活である。リベラル派は「アキヒト派」となり、天皇制反対派が消されていると現状に対する危機感

を明らかにした。

今後の運動への重要な提起となった集会であった。

（反戦反天ネット・関東／野村洋子）

検証：高浜原発再稼働をめぐる2つの「判決」

原発訴訟の歴史とは、敗北の歴史であった。その山が動いたのが二〇〇六年の金沢地裁による北陸電力志賀原発の建設・運転差し止め判決である。今回のシンポジウム（日時：二〇一七年七月一六日、会場：スペーススたんぼ、主催：福島原発事故緊急会議）では、当時裁判長としてこの判決を下した井戸謙一さん（弁護士）に、高浜原発再稼働をめぐる二つの判決、すなわち、二〇一六年三月九日の大津地裁による高浜原発の運転差し止め訴訟の認容（井戸さんは弁護士として関わられた）と、二〇一七年三月二八日の大阪高裁による却下という二つの異なる判決の基礎となった考え方と特徴について報告していただいた。

両者を比較するうえで、井戸さんが着目した主要な要素のひとつが、立証責任の考え方の違いである。大津地裁の決定における立証責任の考え方の立脚点となっているのは、一九九二年一〇月二九日の伊方最高裁判決である。伊方最高裁判決は、事業者である電力会社が原発の安全基準の合理性・適合判断の合理性について立証する必要があることを示した。大津地裁の決定は、この立証責任の考え

方に準拠した判決となっている。一方で、控訴審である大阪高裁の判決では、「汚染水対策に関する新規制基準の定めが不合理であるとはいえない」という判断に現れているように、実質的な争点（住民側が指摘する問題点）は、すべて住民側の立証責任とされたのである。この大阪高裁による立証責任論が、伊方最高裁判決の趣旨に沿うものでないことは明らかであり、したがって、その判断の枠組みが大きく後退してしまったことをうかがわせるものであった。

では、こうした原発訴訟の闘いへの逆風に対して、運動側はどうすべきなのか？ 井戸さんは、合理的な立証責任論を採ら

せることが必要だと説く。つまり、安全だからと言って原発立地を進めたのは事業者なのだから、安全性を事業者が立証すべきことは当然という論理を構築していくこと。それは、市民の普遍的な意識と粘り強い運動によって作り出していかなければならないこと、そのことを再認識させてくれる井戸さんの報告であった。なお、当日は三〇名を超える参加者を見て、報告内容もさることながら質疑応答を含め大変に盛況な会であったことを付け加えておく。

（元）プルス・プラン研究所事務局／横山道史

【学習会報告】

平井啓之『ある戦後—わだつみ大学教師の四十年』

（筑摩書房、一九八三年）

平井啓之『ある戦後—わだつみ大学教師の四十年』は一九八三年二月に筑摩書房から刊行された。

私は刊行された直後に、『日本読書新聞』に書評を書いている。それは、「反天連」づくりがスタートしている時点であり、そこに収められている天皇制（というよりヒロヒト天皇）批判の鋭い言葉に強烈に共感した。そして、その書評も一つの契機となり、著者とのかなり親密な交流が、さらに平井さんの長い活動の場所であった「わだつみ会」との「昭和天皇代

替わり」の状況下での、ささやかな交流がうみだされていった。（天皇（制）の戦争責任・戦後責任）という、反天皇制運動の普遍的なテーマ。それを戦後の象徴天皇制下で自分たちの問題として私たちが深く自覚していくプロセスと、その交流は重なっていた。

「平成天皇代替わり」状況下の今、この本をテキストとして再読したのは、一つは、この間の学習会で一貫して問題にしている天皇の「人間宣言」なるものを、どう読むかが頭にあってのこと。

「いちからわかる天皇代替り」浜松の集い

二〇一七年七月一七日、「いちからわかる天皇代替り」の題で、桜井大子さんを講師に集いを持った。桜井さんは、平成天皇制とは、退位特例法の問題点、今後の課題の三点で話した。この三〇年の慈愛と平和と民主の天皇像をとらえなおし、特例法での議会の翼賛、天皇自身による天皇制再定義と公務の合法化、第一条での天皇への国民の敬愛、理解、共感の強制などの問題について考えることができた。桜井さんは「天皇制はさまざまな形で市民の人権を侵害します。おかしいこ

とにはおかしいと声をあげましょう」と結んだ。

最後に参加者が歌を一曲歌った。題は「自由と民主」。

存在そのものが政治で差別だ 王位継承が人間の尊厳を侵す 平和と民主の仮面の下で 新たな派兵と戦争がはじまる ゆずるのではなくなくすときだ

存在そのものが 自由と民主に反し 閥閥がうまれ 支配階級をつくった その存在が 戦争を起こし 反省なき戦後をつくった ゆずるのではなくなくすときだ

号や称号を蔓延させ 奴隷の心を植えていく 自由と民主主義を語るのな

アキヒトの「生前退位希望のメッセージ」をマスコミは第二の「人間宣言」として、持ちあげ続けた。しかし、大日本帝国憲法下、「現人神」の主権者を自称していたヒロヒト天皇が、敗戦後、占領下で、自分の「神格」性を否定し、「象徴」におさまるために発した「人間宣言」。それがそう呼ばれた理由は、表面的には理解できるが、はじめから「象徴＝人間」天皇としてスタートしているはずのアキヒト天皇が、新たに「人間宣言」というのは、いかにも奇妙。

これは、ヒロヒト天皇の「人間宣言」なるものが、実はどういう政治的パテンと欺瞞の産物であったかをこそあらためてグロテスクに表現しているのではないか。天皇を「人間」と視ようと

すれば「人間」と視え、「神」として視ようとすれば「神」とあるという日本の民衆の（自己欺瞞の意識）にメスを入れて、この（人間宣言）をスナリ受け入れた無責任と欺瞞との民衆意識を問いなおす平井の問いは、この状況下でこそ生きている。渡辺清の天皇ヒロヒトへの怒りへの深い共感をこめた論文を含めて、平井の天皇制批判を、あらためてこの状況下で読みなおせてよかった。

ヒロヒト天皇個人への「古くさい」怒りの論文は、この「新しい」状況下で、まったく「古く」なっていない。

次回は八月二十九日、テキストは茶谷誠一著『象徴天皇制の成立』（NHKブックス）。

（天野恵一）

らひれ伏すな陛下と呼ぶな ゆずるの
ではなくなくすときだ もういらな
きみのおことはもう聞きたくはない
きの儀式ももうみたくはない 差別と抑圧
のシンボルよさようなら 無責任と奴隷
根性にさようなら ゆずるのではなく
くすときだ もういらな

海つくり 植樹祭 国民体育大会 君が代・
日の丸 愛国の慰霊 繰り返す儀式の 果て
の隸従 新たな王も元号もいらな

るのでなくなくすときだ もういらな
(人権・平和浜松／竹内)

ハルタ日誌

7月3日(月) ● 辺野古実防衛省行動

7月15日(土) ● おことわりリンク連続講
座 バラリンピックは障害者差別を助
長する(集会の「真相」参照)

● 検証・高浜原発再稼働をめぐる「2つ
の判決」 再稼働ラッシュを止めよう!
(集会の「真相」参照)

● 語ろう・謀ろう・創り出そう 天皇代
替わりを許さないうねりを(集会の「真
相」参照)

7月17日(月) ● 一からわかる天皇代替
り その問題点(集会の「真相」参照)
7月22日(土) ● 辺野古実新宿デモ
7月28日(金) 29日(土) ● 第30回政
教分離訴訟全国交流会

法政情報 INFORMATION

8月11日(金) ● 天皇制と戦争…アキヒ
トにも責任はある!

18時15分開場／文京区民センター2A

(地下鉄春日駅ほか)／伊藤晃／主催:
「代替わり」過程で天皇制と戦争を問う
8・15反「靖国」行動(090-32380263)

8月12日(土) ● 平和の灯をーヤスクニ
の闇へ キヤンドル行動

13時30分／在日本韓国YMCA(J
R水道橋駅ほか)／原武史・権赫
泰・高橋哲哉／主催:同実行委員会
(03-3355-2641四谷総合法律事務所)

● 「翁長知事を支え、辺野古に新基地を
造らせない沖縄県民大会」に呼応する
首都圏行動

14時・15時／デモ／東池袋中央公園(J
R池袋駅ほか)／主催:同実行委員会
(連絡先:090-3910-4140 沖縄・一坪反
戦地主会関東ブロック)

8月13日(日) ● 第5回日本軍「慰安婦」
メモリアル・デー

13時30分／文京区民センター3A(地
下鉄春日駅ほか)／田口道子・仁藤夢乃・
尹美香／主催:戦時性暴力問題連絡協
議会、日本軍「慰安婦」問題解決全国
行動(090-6020-5677)

● 「お気持ち」なんか知らない 忖度し
ない集会・デモ

14時／集会後デモ／つくば市立吾妻交
流センター(TXつくば駅)／桜井大
子／主催:戦時下の現在を考える講座
(090-8447-1457加藤)

8月15日(火) ● 反「靖国」デモ

15時30分集合／在日本韓国YMCA/
主催:「代替わり」過程で天皇制と戦
争を問う8・15反「靖国」行動

9月2日(土) ● 東電元幹部刑事裁判が始

まった!東京集会

10時開場／田町交通ビル6(JR田町
駅)／主催:福島原発刑事訴訟支援団・
福島原発告訴団(080-5739-7279)

● 生前退位、何が問題か 天皇代替わり・

憲法・政教分離・これから
13時開場／日本基督教団紅葉坂教会/
天野恵一・桜井大子・遠田哲史・堀江
有里／主催:日本基督教団神奈川教区
社会委員会ヤスクニ・天皇制問題小委
員会、「日の丸・君が代」の法制化と強
制に反対する神奈川の会(問い合わせ:
090-3909-9657)

9月3日(日) ● 米軍・自衛隊参加の東
京都・調布市総合防災訓練反対!監視
行動・抗議情宣・抗議デモ&報告集会

8時30分・監視行動・抗議情宣 京王
相模線多摩川駅前広場／抗議デモ・12
時集合 多摩川5丁目児童遊園(京王
線多摩川駅)／報告集会・17時30分開
場 調布市文化会館・たづくり(京
王線調布駅)／主催:米軍・自衛隊
参加の防災訓練に反対する実行委員会
2017(連絡先:04-5659-9638立川自
衛隊監視テント村)

9月10日(日) ● 監視社会を考える連続
学習会 東京オリンピックと市民監視

14時／アカデミー茗台(地下鉄茗荷谷
駅)／鶴飼哲／主催:盗聴法廃止ネッ
トワークほか(090-2669-4219久保)

● 軍拡予算の何が問題か? 2018年
度防衛費概算要求を読み解く

18時30分／文京シビックセンター5
F(地下鉄後楽園駅)／吉沢弘志・杉

原浩司／主催:有事立法・治安弾圧

を許すな!北部集会実行委員会ほか
(03-3961-0212 北部労法センター)

9月20日(水) ● 警視庁機動隊住民訴訟
第3回口頭弁論

11時30分開廷(10時30分アピール行動)
報告集会あり／東京地方裁判所(地下
鉄霞ヶ関駅ほか)

9月21日(木) ● 共謀罪とグローバル化
する刑事司法 対テロ戦争と対峙する
社会運動の課題

18時開場／文京区男女平等センター
／小倉利丸／主催:ATTAC Japan
(03-3255-5910)



● 安倍を奈落の底に落としたい。しか
しとりあえずは8・15デモ。そしてもつ
と楽しもう。(木菟)

● 予定はいつに埋まっているのに
真夏は墮落の誘い。(編蝠)

● 行動スケジュールはハチャメチャ状
況。それでも僕はTV放映映画づけ。
ドウナッテル。(熊)

● スケジュールピシリの真夏なのに、
体調不良。安倍みたいに腹黒くないつ
もりだけ。(鯉)

● みんな、スケジュール管理ができて
いない証拠です。夏休みだからと行っ
て夜更かししていないで、規則正しい
生活を送りましょう。作業の後は必ず
ビールを飲むとか。(猿)

● 今日の作業には兎も参加しました。